


## ふるさと教育 取組事例

学校名	飯南町立来島小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活	きじまのすてきを見つけよう	来島交流センター、中央図書館、来島郵便局
ねらい	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見つけ、地域にはさまざまな場所がありさまざまな人がいることに気づくとともに、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気をつけて生活したりしようとするができるようにする。		
<b>1 取組の概要</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きじまのすてき」を見つけるため、来島地区のさまざまな場所を訪問し、訪問先でインタビューを行った。</li> <li>・インタビューをしてわかったことを、生活科の授業で全体で共有した。</li> <li>・学習したことをワークシートにまとめ、廊下の掲示板に掲示した。授業公開日の日に合わせて掲示をし、保護者の方やほかの学年に見てもらった。</li> <li>・11月21日に行われた飯南町2年生交流学习にて、学習の成果を発表した。</li> </ul>			
			
町探検（来島交流センター）		飯南町2年生交流学习	ワークシート（町探検で見つけたすてき）
<b>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</b>			
<p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検を通して、来島のまちにある様々な場所では、どのような人がどんな思いをもって働いておられるのか、また、その場所はどんな役割や工夫があるのかを知ることで、自分の住むまちを知り、大切にしたい気持ちを持てるようにした。</li> <li>・町内2年生交流学习で「きじまのすてき」を発表する場を設け、来島のよさをたくさんの人に伝えることで、改めてふるさとへの愛着と誇りを確かめることができるようにした。</li> </ul> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>（1）魅力ある直接体験の場を作ることで、学ぶ意欲の向上を目指す。</p> <p>実際に来島のまちを探検し、自分の住む地域にはさまざまな場所や人がいることに気づき、「ここではどんなことをしているのだろうか？」「自分たちの生活とどのような関わりがあるのだろうか？」「知りたい！調べてみたい！」という思いを高め、学ぶ意欲の向上につなげる。</p>			

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

(2) ワークシートや発表というかたちでの「きじまのすてき」を発信する場を設定することで、子どもたちの表現力の向上を目指す。  
町探検で聞いたことや見つけたことを整理し、伝えたい事柄を選択しながら、「きじまのすてき」を相手に分かりやすく伝えることができるようにする。

(3) 自分たちの生活との関わり、人々の思いや工夫に着目させることで、「きじまのすてき」に気づくことができるようにする。

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・町探検を通して、自分たちの生活との関わりを感じることができていた。「みんなが楽しく、安心して生活することができるようにしている。」というまちの人の声を聞き、ふるさとの暖かさを感じていた。
- ・「きじまのすてき」をたくさんの人に伝えることで、自分たちが住んでいる町への誇りを感じることができていた。

（学力育成の視点から）

(1) 実際に町探検で自分たちの住む町を歩いてみることで、自分の知っている場所や今まで気がつかなかった場所について改めて知ることができ、「もっと詳しく知りたい!」という意欲を持って学習に取り組むことができた。

(2) それぞれの場所で働く人の話を聞いたり見たりした中から、自分たちが伝えたい事柄を選んで人に発表することができた。聞く人のことを考え、楽しみながら聞けるよう、クイズを入れたり動きをつけたりして発表の工夫をすることができた。

(3) 自分たちの生活に大きな関わりがあること、自分の住む町のよさや住みやすくするための工夫などに気づき、自分がすんでいるまちを大切にしようという思いをもつことができた。

### 4 課題や今後の展望

飯南町2年生交流学习で「きじまのすてき」を発表するという目的意識を持って取り組むことができた。町探検を通して実際に校外に出向き、直接見たり聞いたりする経験を重ねていくことで、よりふるさとへの愛着を持つことにつながったと感じる。今年度は3カ所を訪問したが、少人数という強みを生かして、多様な場所に行けたらよかったと感じた。この学習が生活科の一単位として終わるのではなく、今後も地域資源を生かした教育活動を行っていきながら、子供たちの自らの学びを発信する力を身につけていくことができるよう今後も取り組んでいきたい。